

様式第2号（第5条関係）

平成29年 7月11日

出張報告書

栗山町議会議長 鵜川和彦 様

栗山町議会議員 植崎忠彦 印

このたび、下記のとおり出張いたしましたので報告します。

記

- 1 期 日 平成29年 7月 6日 ～ 平成29年 7月 8日まで
- 2 旅 行 先 鳥取県 岩美町
- 3 目 的 岩美町教育委員会
小さくとも輝く自治体フォーラム
- 4 関係書類 別紙のとおり



日 時	平成 29年 7月 7日 9:30 ~ 11:30
視 察 先	岩美町教育委員会
調査事項	まちづくりは人づくり 教育のまち 特色ある学校づくり
対 応 者	町長・榎本 武利 教育長 寺西 健一 教育次長 松本 邦裕 係長 澤 大鶴
1. 視察目的	教育基本理念
2. 視察内容	「まちづくりは人づくり」教育のまち
① 背景	教育基本目標
② 特徴	「みんなでつくる 教育のまち 岩美」
3. 主な質疑	町内4小中学校を対象に特色ある学校づくり
4. 考 察	推進事業補助金として 400万円を計上、
(感想、政策提	各校(小学校3校、中学校1校)の自由裁量で
言、課題など)	100万円交付。
	-補助金の趣旨、目的-
	① 伝統を築き上げていくこと。
	地域の歴史や特色を取り入れていく
	② 地域住民との連携。
	③ 教育課題の解決
	-補助の成果-
	① 地域をテーマとした学習や活動の実践や
	地域の歴史への関心を高め、地域の
	人材を学校に招くなど 地域の方々との
	ふれあいを大切にする活動を行うことか
	下きた
	② 各学校の創意工夫により、芸術鑑賞
	地域学習、職場体験事業など、児童
	生徒の見識を高める活動を行うこと

か下きた

- ③ 赤ちゃんとのふれあい体験等を通して、命の大切さを学ぶ活動を行うことか下きた。

ー平成28年度の活動状況ー

砂の堡つくり、遠泳、漁船乗船体験、
海の学校(磯の観察、シーカヤック)

国際交流(ロシアバレエ団)音楽鑑賞、
水田・畑・果樹園の整備、収穫祭など

ー平成29年度より小中学校全学年での
30人学級編制を実施ー

学校生活への円滑な適応、基本的な
生活習慣の習得、基礎学力の定着を
目的に少人数学級編制を実施

日 時	平成 29 年 7 月 17 日 13: 40 ~ 14: 50
視 察 先	「若美町」自治体フォーラム
調査事項	人口減少と田園回帰 1% 戦略
対 応 者	藤山 浩 (社) 持続可能な地域社会 総合研究所長.
1. 視察目的 2. 視察内容 ① 背景 ② 特徴 3. 主な質疑 4. 考 察 (感想、政策提 言、課題など)	1. 地域社会の限界状況 - 集中型国土か もたらしただの. 中山間地域の農山漁村では、人口急 減局面を叩き起している 都市への人口集中に産業の集中を支 えてきた地球規模の資源やエネルギーの 収奪が持続可能でないことを明らかに しつつある. 2. 田園回帰 1% の現実性と地域内循環 による所得の取り戻し. 人口減にあえぐ過疎地域においても、 平均すれば地域人口の 1% 分の定住を 毎年増加させることにより、持続的な 地域人口の居望を開くことができる 同時に毎年 1% の地産地消化を進める ことにより、定住増加に必要な所得 増加の可能性が生まれてくる 3. 新たな結節機能の創設. 「小さな拠点」 小規模な自治体における定住と経済 循環を支えるためには、分野と集落を横断 した多角的な結節機能を発揮する 「小さな拠点」を政策の軸として求められる.

4. 小さくとも輝く自治体にあめられる
「社会技術」

「小さな拠点」を動かす運営原理は、
適性規模としての自治体、次世代に
残せる地域づくり、国土保全。

5. 最後に残り、受けるものは「記憶」
地域社会の持続性を高めた人の
記憶は、人々の心に残り、次の世代に
勇気を与える「記憶のリレー」が紡が
れる地域社会の財産である。

日 時	平成 29年 7月 7日 15:10 ~ 16:50
視 察 先	「岩手町」自治体フォーラム
調査事項	仕事と定住促進
対 応 者	多田 憲一郎 (鳥取大学)
1. 視察目的	「よき者」を軸とした「新しい農山村政策の可能性」
2. 視察内容	中山間地域への移住者の増加
① 背景	移住者の「数」から、「中身」も変化
② 特徴	① 地域課題の解決に向けた様々な挑戦ができる場
3. 主な質疑	② 自分の能力を試す場
4. 考 察	③ 自分の夢が実現できる自己実現の場
(感想、政策提言、課題など)	地域課題を自分自身の関心や問題意識と重ね合わせ、解決するために、自らの仕事を「よき者」という「よき者」
	1. よき者が集まる地域のポイント
	地域の将来を見通すビジョンの策定
	構想の内容が単なるビジネスの範囲に留まらず、後の世代まで継承するという資源や環境保護の視点や地域に住民の生存権や生活権を争うという姿勢
	2. 「よき者」を巻き込んだ「地域ネットワーク」主体の構築
	特定の単独主体ではなく、異業種や異分野そして異なる地域も含める「水平的協働のネットワーク主体」形成の構築から、地域の内発的発展の原動力となる

3. 今後の「農山村政策」の在り方
「交流」と「定住」

↓
「共感」と「定住」

↓
「関係人口」

農山村が「多様なよき者」と関わりながら
ともに地域課題の解決へのチャレンジを
続ける。このことが現代の農山村の持続
的発展を促す条件のひとつと考えられる

日 時	平成 29 年 7 月 8 日 9:30 ~ 11:00
視 察 先	「若見町」 自治体フォーラム
調査事項	地方創生をどうにかし、どうすすめるか
対 応 者	保田 武彦 (鳥根大学名誉教授)
1. 視察目的 2. 視察内容 ① 背 景 ② 特 徴 3. 主な質疑 4. 考 察 (感想、政策提 言、課題など)	地方自治を巡る激変の中で、小規模自治体は、「顔の見える関係」という、真の自治の強みを生かし、住民が住民が続けたい、若者が移り住みたいと思う持続可能な地域づくりに努めてきた。 1. 日本財団が鳥根県に取組む事業で目指していること。 本田 悟史 (日本財団鳥取事務所長) ◦ 地域自治力 (経営力) の向上 ◦ 少ない人口下でも生き残ることのできる地域の中での仕組みづくり ◦ 行政と地域自治組織との間で、機能と役割の適切な分担 - 仕組みづくりの支援 ◦ 人材の育成 (情報発信人材) 2. 小さな町の大きな挑戦 石橋 良治 (鳥根県 邑南町長) ◦ 地域力の醸成 (216 集落、39 自治会) - 自治会担当職員の設置 (情報の共有) ◦ 教育 (学校の統廃合しないうえに 11 校) ◦ 「持続可能なまち」を目指し 定住プロジェクト

○地区別戦略の実践

3 地域を生かす

小林 清 (鹿野まちづくり協議会)

○鹿野まちづくり合宿

○移住したい環境をつくる

やりたいこと (仕事、趣味、子育て)

楽しみ (仲間、集い、遊び)

地域の魅力 (歴史、文化、教育、環境)

行政による支援策 (住宅、仕事)

4 地方創成をどういし、どうすすめるか

榎本 武利 (岩美町長)

○地域創成をめぐる最近の動き

①移住者が地元と一語になってまちづくり

②妊娠時から出産、子育てまで切れ目のない支援

③誰もが安心して暮らし続ける仕組みづくり

○人口減少の現状・ビジョン

人口減少=歯止めをかける

10年後には社会移動ゼロ

15年後には合計特殊出生率 2.07をめざす

○岩美町地域創生総合戦略

①我レンジする若者が集うまちをめざして

②自然資源を活かした元気なまちづくり

③子どもを産み育てる希望が叶い、安心して

暮らせるまちづくり

④住み続けたい、帰ってきたい、任人いめたいまちづくり

2016年 住みたい田舎ベストランキング
全国総合第一位